sada

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 4

昭和61年3月31日

SADA 新春セミナーと懇親のつどい

堺デザイン協会も誕生して早くも３度目の新春を迎え、１月24日新春のセミナーを開催した。川崎理事長が昨年11月末から１週間、国際会議に出席した時の報告を、スライドを交え独得の話し振りで披露され、その後懇親の小宴に移り、賛助会員、新入会員も含め26名の会員が参加して、今年の抱負等を話し合い楽しい一夜を過し、９時前に散会した。

■ＩＦＩ国際会議に参加して

―パリ・ケルン・グラナダ―　　**川崎　浩**

ＩＦＩ理事長 ビントン氏（フランス）と……

●プロフェッション（職能）

ＩＦＩ（国際インテリアデザイナー団体連合）は1963年に17ヵ国の連合体として設立され、1978年に日本も加わり、現在23ヵ国の加盟で２年に一度、持ち廻りで総会が開かれる。昨年11月23日から４日間、パリで才12回の会議がもたれた。会場は100年前才１回万国博の時つくられた、グランパレと呼ばれるところ。ガラス張りで天井が高い広大な展示場の一部をテントで仕切り、天井を張った仮設の会場に、演壇と、階段状の議席が設けられていた。冬のパリは光りが弱く、太陽も低く、寒い。テント張りで暖房がないときているので、全員コートの襟を立てて震えながらの討議であった。

メインテーマは「profession（職能）の確立」となっている。プロ野球とか、プロ意識というプロフェッションとは大分意味が違う。(1)知的内容の訓練を必要とする職業である。(2)他人のために奉仕をめざす職業である。(3)経済報酬の多寡がその成功を測定する基準とされない職業である、とされている。（石村善助著「現代のプロフェッション」）

プロフェッションは職業であってもオキュペーションとは一線を画したものであり、営利を追求しない点に特色があるようである。西欧では聖職者、法律家、医師、そして建築家がプロフェッションと考えられていた。今あらためて国際的な規模で、インテリアデザイナーに（広く各分野のデザイナーといってもよいと思うが）プロフェッションの確立ということが問題になるのは、長足の進歩を遂げつつある科学技術の修得に追はれ「感性」という何か得体の知れないものを口にすることで、目先を繕ろおうとすることの多いデザイナーにとって、もう一度考え直そうではないかといふ呼びかけである。Profession の訳に「信仰告白」の語が見える、プロフェッションには信仰に関する「何か」が必要とされているのである。奉仕的、非利己的、常に世のため人のためを思い日夜研鑽を重ねる。それでこそ社会的にも認知され、己の生活も向上するのである。私はずっと企業内でデザインの仕事をしており、それが常々念頭にあっただけに会議の意味するものは大きい。

●ポスト・モダン

会議終了の翌日、早い汽車でケルンへ、５時間で着く。小雪。日本文化センターの書や埴輪の展示を見、ポテトスープで暖たまり、大聖堂近くの美術館と、ローマンゲルマン博物館を見る、翌日汽車で40分ばかりのところの ミュンハイム・グラッドバッハ という小さな町にある現代美術館を訪ねる。オーストリアのハンス・ホラインの設計による建物は、ポスト・モダンなる語を初めて言い出した人物の代表作で、それ以後のポスト・モダン建築の規範となったといわれる。なるほど古い石積みの街並の中にあって、ガラスとステンレスの鋭角的な外観が不思議に合う。そしてインテリアのディテールがうまい。よく見かけるあのポスト・

モダンといわれる媚びたいやらしさがない。やっぱり本家の貫禄である。展示は最先端芸術？ばかり、石がゴロゴロあって、説明板があるので作品であるということがわかる。２ｍ立方位の発泡プラスチックの塊に鉄のタガが嵌めてあって、それが彫刻らしい。ともかく訳のわからないものが全館に並べられている。ヨーロッパの美術館では、教科書通りの名画の数々の現物に頭を下げ、印象派以降のものに近づいてはしげしげと親しみを覚えたものである。　その後マドリッドでも開設したばかりの近代美術館でもまた、頭の痛くなるようなゲイジュツ作品群にお目にかゝったが、たくさんの人々がそれほど深刻がらないで楽しんでいるようであった。

古いものと新しいものとの混在の中に、たゆまない平凡な日々の生活の中に、目立たないが着実な進歩がみられる。ヨーロッパは衰えたとはいえ、　やはり世界の知性でありつづけるのである。

ミュンハイム グラッド バッハ現代美術館

●親切（やさしい心）

旅も終りに近く、スペインの南部グラナダへのバスの中、宿は着いてから探そうと、同行の友人と決めていた。しかし、着くのは７時近い。心細くなる。学生らしきグループにおそるおそる話しかけてみると、英語で返事が返ってきた。獣医の学生とわかる。「初めての地、良いホテルはないだらうか」皆んなで何か相談している様子。「ホテル・ルース・グラナダがいいと思います。都心だし、何かと便利です。」と地図に印をつけてくれた。「ルース・グラナダ」訳せば「グラナダの光」、その名もまことによろしい。

コルドバからマラガへ。列車のホームの番号はわかったがそのホームがわからぬ。その附近の爺さんに切符を見せて尋ねると、地下道をくぐって隣りだという。重い荷物をさげて隣りのホームへ、時間がせまっているのに人影が少ない。また心配になる。また近くの爺さんに聞く、（手ぶり、足ぶりで）、両手で何か切る仕草をする、そして今来たばかりの隣りのホームを指さす。さあわからない。列車が入って来る。どうしょう。爺さんは荷物を持って入口へ、低いホームから上に揚げて、そしてニコニコ。　後でわかったのであるが、そこで列車を切り離し（「何か切る仕草」がそれであった）、あらためて隣のホームに入線し、乗り換えの人を待ち、出発するということであった。改札のない駅では、爺さん連中がタバコをくわえ何となく、　ぶらぶらしているようで、困っている人の、手助けをするのを楽しみにしているようである。

陽気で開放的な、ものおじしない国民性の故か、やさしい心根の人たちの、ほんのささやかな善意なのである。旅人への思いやりとか、奉仕の精神とか、そんな大それたものではないのがうれしい。親切とは元来そんなものなのである。

デザイナーに求められる感性とは、やさしい心から生れるのがよい。研ぎ澄まされたセンスは、もう要らないのではないだらうか。

コルドバにて……

"堺の街" に大内順子さんを迎える

ー市民会館での桂学園ファッションショーに招聘ー

桂　ともこ

三国丘家政専門学校は、創立50年の歴史の結実を迎え、教育システムを一新するとともに、"桂学園ファッションシステム専門学校" と校名を変更、新しい校名披露として、生徒達のファッションショーを堺市民会館で行い、お客様として、大内順子さんをお招きいたしました。

大内順子さんは、ファッションレポーターとして、また、ジャーナリストとして、パリコレクションをはじめ、イタリア、ロンドン、ニューヨークコレクションなど、世界のデザイナー達の作品や活動を現地で取材して帰られ、各地の講演や、テレビ・雑誌等のマスコミを通して発表されるなど、巾広い活動を続けておられます。

当日、堺市民会館大ホールにつめかけた大勢の堺の女性の期待と熱い視線を受けて、客席から舞台中央に上った大内順子さんは、大変シックな大人の女性の雰囲気の、真黒の皮革のコート姿で現われ、ご持参下さったスライドを写しながら、楽しいファッションのお話しをされました。

客席で、生徒達のセルフパフォーマンスを御覧になって、「こんなに楽しいファッションショーを見たのは、はじめて……。とっても楽しかったですね』と、当日司会役の読売ＴＶファッションレポーター近藤三津枝さんとの対話で、話が進んでいきました。

「今、見せていただいた生徒さんの作品を見ても感じましたが、日本人の女性に対する誉め言葉の最上級が、"かわいい" であり、子供から80才のおばあさんにいたるまで、"かわいい女" というのが最高の讃辞になっていますね。ところが、ヨーロッパ、特にフランスでの成熟した女性、"大人の女" の持つ美や、大人のムードは、あまり日本では要求されていないようです。これは、日本とヨーロッパの大変大きな違いだと思いますよ』さらに続けて「また、今のショーを見てもおわかりのように、欧米に比べると足が短く、プロポーションの悪い日本人でも、なんとなくかわいい感じにキュートに着て見せると、それらしく "様(サマ)" に

になるようですね。パリコレクションなどを見ていますと、モデルさん達は、背がとっても高いですね。日本人の山口小夜子という秀れたモデルでも、彼女の弱点は、170～175cmしか身長がないということなんです。ですから、背が高くて、スマートなモデル達が着て見せる洋服を、皆様方は、そのまま "さるまね" をしてはいけませんよ』と、次々にあふれ出るファッション情報の受けとり方に注意をされました。

また、ご自身担当のレギュラー番組「ファッション通信」（テレビ大阪・水曜日22時～22時30分）で、日本中のあらゆる年令の、いろいろな体型の人の相談を受け、その人がきれいに見えるようにアドバイスをされている事柄にふれて、「100人が100人とも、きれいに見せることに成功します。ですから、さる真似でない、皆様方ご自身の装い方のファッションにして下さい。装う事で一番重要なのは、着る人の体格、特に身長とプロポーションに、服のデザイン、バランスが良くあっているということです』とのお話しです。

さて、いよいよ、フランスのデザイナー達のスライドが舞台中央のスクリーンに大きく写し出され、61年春夏のファッションについての講演に移って行きました。
客席も少し明るくし、会場のお客様をご覧になりながら語りかけるような口調で、やさしくお話しになりました。

「すでに何年か前から、日本人のデザイナー達が、日本から、パリに大勢おしかけ、フランスの人達や、世界各国のジャーナリスト達を驚かせました。

彼らが（川久保玲や山本耀司）パリで発表したコレクションは、それまでのクチュールの常識を破って、布をフォルムなく体にまきつけたようなぼろぎれルックとでも呼ばれるもので、一時的には、ヨーロッパでも、大変なセンセーションを巻き起しました。

しかし、そのうちにそういった日本勢に対する、フランス、ヨーロッパの反発意識がはっきりと出てきました。

つまり、服は、あくまで服なのだということ。単に生地を体にまとうのではない、フランスのオートクチュールの伝統性に再び意識が戻り、より構築的に、フォルムをはっきり形づくった装いに戻ってきています。」

今年の春夏のファッションの傾向について、ウエストにピッタリフィットしたフェミニンなドレスやクラシックなジャケットなど、女性の美しいボディラインが強調されるシルエットになっている傾向が強いこと、そして、それはブカッとした袋のような服に対する反発で、女性本来の肉体の持っ美しさを強調する傾向が強くあることなどを特に話され、大きくデコルテされたタウンウェアや、おなかの部分を露出させたもの、ブラジャーのように小さなブラウス、水着等をスライドで見せ、解説されながら進められた大内順子さんの講演は、会場の人々にファッションについての新しい感じ方、考え方を投げかけ、説き明かして、大きな拍手のうちに終りました。

この前に催されたファッションショーについては、審査が行われた結果、生徒達の優秀作品に対して、堺市長賞・堺市教育委員会教育長賞・堺文化観光協会会長賞・堺デザイン協会理事長賞・学校長賞が決定し、舞台の上で表彰式が行われました。それぞれの代表からレプリカと表彰状を受け取る生徒達は、感激にほゝを染めながら、デザインや制作の上で苦心した点などについての質問に答えておりました。

こうして、3時間近くにわたったファッションショーと講演の催しを無事終えることができまして、主催者一同ほっと胸をなでおろし、この催しを盛り立てて下さった皆様方や、ご来場下さったお客様方に感謝した次第でございます。

（広報委員、桂学園ファッションシステム専門学校副校長）

企業が創る

2次元グラフィックディスプレイターミナル「コムテック2500シリーズ」

ダイキン工業株式会社

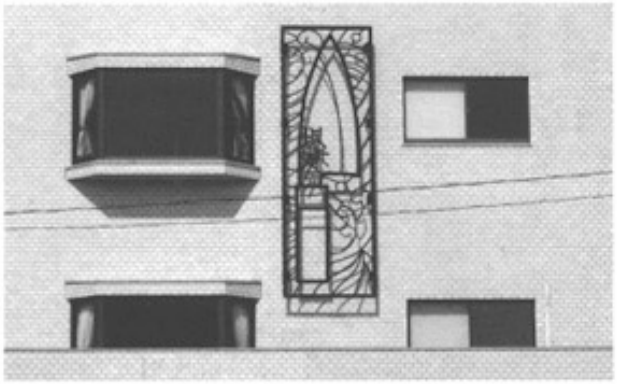
当社は、もっぱら空調と弗素化学を中心に業務を展開して来たが、新事業展開の一つとして、57年にハイテク分野に乗り出した。その成果の一つがベンチャービジネスと共同で58年1月に商品化したグラフィックディスプレイ装置「コムテック2000シリーズ」で、その後次々と新シリーズを登場させ、現在CAD/CAM（コンピューター支援設計・製造）用3次元グラフィックディスプレイ市場の約3分の1の需要をまかなえるようになった。今回手軽に利用しやすい普及用として、新商品2次元「コムテック2500シリーズ」を新発売した。これらの一連のデザインは、永く空調機器を主にやってきたデザイングループにとって全員一般知識がなく、イチからの勉強から始まり大変苦労が多かった。「コムテック2500シリーズ」デザインのコンセプトを『マンマシーンコミュニケーション（人間との対話重視）』とし、特に自然な姿勢での操作のしやすさ、目に対する刺激の少ない色彩を重点に、疲れない、見やすい、アキのこない、さらに全体として室内環境との調和を狙ったデザインにまとめた。

ズームアップ

刃物のオブジェ

北川　正

柳の葉の緑も今に素晴らしい色をかもし出すであらう堺の町並。地場産業刃物の町として伝統と老舗を誇る古い建物も多い。原稿を出すことになって日頃の認識不足がたたり何も解らないまま歩いていて、ふと目を引くサインともオブジェとも思えるユニークな物を見つけた。



宿屋町の阪神高速沿いで白い建物の壁面に、黒の太いラインで、庖丁のもつ柔かな輪郭を中央にあしらい、回りを堺港の波だろうか、シンプルに図案化されている。コンクリート色が目立つこの辺りに意外と面白い雰囲気をかもし出している。

堺の伝統工芸といえば刃物を連想し、特に和庖丁といえば、とかく"古めかしさ。を思わせるが、その中にあって単純なラインのみで構成されているところに、素朴な古代土器に似た、新鮮な古めかしさが感じられる。

普段何となく通り過ぎている町並みにも、意外とこのようなところがあるのかもしれない。このような味わいを感じるのは自分だけだろうか……。

堺・今・昔

鉄砲と自転車

老 建 一

堺歴史散歩（徳永真一郎著・創元社刊）によれば、明治３年（1870）開国間もない日本に木製の自転車が輸入され、遊園地の娯楽用として乗り廻されていたという。それから約30年後に堺の桜之町・近藤氏が鉄砲鍛冶の技術を活用して、鉄製自転車部品の製造をはじめ、ハンドル、フォークなどの形ができたのは、明治35年（1902年）のことで、今日世界的な評価を得ている堺の自転車部品はこのようにして85年前にはじまったといえるが、遠く天文12年（1543）443年前、種ヶ島銃の渡来から技術の伝統を受け継いでいるともいえる。

堺市北旅籠町には市の史跡として鉄砲屋敷跡があって、３人がかりで使うフイゴや、諸大名に運送する時の御用札などが保存され、盛んだった鉄砲製造の様子を物語っているが、元禄２年（1689）の堺大絵図に大道を挟んで東・西に榎並屋勘左衛門、勘七、治太夫、芝辻理右衛門の屋敷が記され、延宝６年（1678）の鉄砲屋敷は151もあったという。（堺刃物連合会史より）徳川家康が大坂城攻めに口径33㎝、砲身３ｍの大砲を芝辻理右衛門に作らせ、戦争終結を速めたのも堺の技術であったといえる。鉄砲製造の技術が自転車に発展し、世界に貢献しているのも時の流れといえよう。

E－スポット

花と緑を楽しむ店「竹山高貴園」

尾崎悦子

食べ歩きの店ならぬ、花と緑のE－スポットとして、私が気に入っているお店をご紹介します。

上野芝駅から泉北１号線に沿って、深井方面へ歩いて５分「花の女王　洋ラン」のカンバンが目に入ります。そこが「竹山高貴園」１年中、洋ランを中心とした四季の花々が、店内をうずめています。そして観葉植物も、大きいものから小さなものまで、珍しい種類も多く、グリーンインテリアとしてお気に入りのものが、必ずみつかるはずです。店独自のオリジナル商品も多く、何よりもご主人と奥様のあたゝかい接客振りに、また足を運びたくなります。最近では、花と緑をギフト用として使う人も多く、受け取られた人に、大変喜ばれているようです。

そろそろ、春の風を感じはじめたら、是非一度のぞいてみては、いかゞでしょう。

堺市百舌鳥陵南町１－１－４　洋ランの館「竹山高貴園」
TEL 0722－78－0325

生きているガラス

セルリアン ステンドグラスルーム　　上野冨美子

ガラスの歴史は 紀元前3000年頃といわれていますが、人類最初の宇宙飛行士が、月の世界に降り立って、はじめて触れた「サラ、サラ」とした大理石のような物質が何であったかを調べたところ、『ガラス』だったのです。何億万年もの昔から存在していた『ガラス』に、私は神秘以上のものを感じました。私が『ステンドグラス』に強く引きつけられたのは、色ガラスの持つ夢幻の美と、それらが醸し出す光のアートが、絵画にはない別の魅力を放ち、心から美を感じさせたからだと思います。『ステンドグラス』とは、ラテン語のステイン（汚す）という言葉からきています。ヨーロッパの教会とともに発展して来た『ステンドグラス』が今、私達の生活空間の中に、色々な形で取り入れられてきています。美しい色ガラスの芸術が、四季折々、気象の変化、時間の空間の中で、様々な美の感性を私達に与えてくれるということは、何と素晴らしいことではありませんか……私は１人でも多くの人達が、ステンドグラスの感性に浸って下さることを願いながら、作品を生み出したいと思っております。

デザイン随想

岡村　鶯

衣食住がたいへん豊かになった今日、文化大はやりといってもよい世の中になった。衣の文化も、食の文化も住のそれも必要文化である。デザインという横文字以来、横文字文化はカッコヨク、それを先取りするキッチュ（俗）な族あれこれだ。今さらデザインは聞きなれた言葉となった。ある人は何ンでも文化になり、文化がはやり、文化は金儲になるという。

堺はかって日本の夜明けを演出した町で、当時ベネチアと比肩する海にひらけた町であった。西洋から見ればシルクロードの終着点、日の出ずる憧れの国である。ここには納屋衆など旦那衆が存在し豊かな暮しを営んでいたらしい。お茶、お華、おどり、ばくち、はては女郎買いと文化も段階があり、どの階層の人も遊びの場では旦那様で豊かな遊び心をもっていた。

度重なる戦火から今に復興した堺は、その間文化が跡絶えて久しい。私自身の暮しは、誰でも豊かに潤いのあるものを望んでいるし、衣食住以外の心の豊かさは必要不可欠であることも知っている。しかし皆んなの文化はどうすればよいのか、創り手も受け手も文化人不足である。

お茶、お華は盛ん、競艇、競輪パクチは公営で残った。海を埋めたてたのが原因ではなかろうか……？

私とデザイン団体活動

上野あきら

昨年、私を含む㈳大阪デザイン オフィス ユニオンのメンバーは、一昨年に引き続き、㈶国際デザイン交流協会より委託され、『デザインフォーラム'85』の企画実行委員に参画した。『デザインフォーラム'85』は、第2回国際デザイン展『デザインサーカス '85』を盛り上げるためのプレイベントとして、'85年10月15日大阪毎日ホールにおいて、〔デザインってなあに〕をテーマに、「参加者自身が考え語り合うことによって、デザインへの関心を深める事」を目的として開催され、構成内容は、『演』・『映』・『話』の4部。募集1000名を上回る1100名の参加者達は、開幕草々強烈な百虎社のパフォーマンス『演』に圧倒され……ファッションサーカスの『装』に魅せられ……CFサーカス『映』のコマーシャルフィルム上映では心懐かしむ情景が……ラストシーンの『話』では、黒田征太郎・磯貝浩・川崎和男・今井アレキサンドル・KIKI・越前屋俊太・各氏出演のトークアプローチによるパネルディスカッションと続いたプログラムに、十分な堪能と感銘を受けたものと思われます。

成功の裏には実行委員や多数の協力者の力や苦労があったわけですが、苦労を成し遂げた時の喜びは、一生の財産といっても過言ではないでしょう。次回は、堺デザイン協会の会員の一人として、会員・賛助会員・堺市の皆様とともに堺市を『ベッドタウン』から目覚めた『優』と『喜』ある堺市にと夢は大きく膨らむ一方です。

新会員のプロフィール

■税理士　柴田廣志 事務所
（賛助会員）協会顧問

私は親子二代、堺市に在住していますので、当市を愛する心は人には負けない積りです。

さて昨今の経済激動期において、各位の発展に関しては的確なる見通しと判断が最も重要と思はれます。加うるに居住地を愛する精神もまた大切なことであり、私は堺市の利益になることを最優先にすべく、行動したいと念願しています。同時に堺市におけるデザインは、堺デザイン協会の手で行うのが当然であると考へています。

会員の皆様方で日頃　税務、経理でお困りの方、小さいことでも、何卒ご遠慮なくご相談下さい。心よりお世話いたします。

石田好一

コーヒーは自分でたてます。カレーも自分で作ります。ゴルフHD36。テニスはCクラス。スキーは3級。車はFFジェミニ（が欲しいなぁ）。2DKの団地住まいに子供が2人。いつかBIGになったるぞー！と思ってます。

大型ネオンサインからPOPまで、サイン関係のデザインをして7年目。今年30歳のまだまだ若輩者ですが、よろしくお願い致します。

木原節子

ある時は"ドガ。の踊子の様に、またある時は"マリーローランサン。の世界を、と夢見つ、女性のためのお部屋着を中心に20人位のスタッフで物作りをしています。

女性のおしゃれ感覚も海外ブランドから脱皮して個性時代、そして多用化とますますむつかしく、いかにそれらを表現した商品を作り上げるかにより会社の売上げの数字も変るようです。

今日皆様の良きご指導を得てますます生活に密着した、体も心も美しく心地良くラッピング出来るものを作っていきたいと思います。

堺の新製品フェア '86

本フェアは、堺の新製品フェア '86 開催委員会（構成：堺市、堺商工会議所、㈱堺特産品協会）が主催し、3月6日から11日まで、泉北のパンジョ広場で開催された。

期間中、堺市内で生産もしくは、開発改良された製品を、アイデア、デザイン、機能性などの観点から総合的に審査選定が行なわれた。何しろ出品物はインテリア用品、食品、刃物、自転車などと多岐にわたり、賞の決定には長時間を要して漸く優秀製品が次のとおり決った。

▼堺市長賞
アルス刃物製造「キャンパワー15・アウトドア用ノコギリ」

▼堺商工会議所会頭賞
日本ピローブロック製造「セラミック軸受」

▼堺デザイン協会理事長賞
小林製作所「組み合せミラーセット」

▼堺特産品協会理事長賞
森川製作所「カラーベティナイフ」

このほか優秀製品賞として10社の製品が選ばれた。

わがＳＡＤＡ理事長賞に選ばれた、小林製作所の製品について寸評を添えると――。

成熟化時代を迎えて、生活者の意識はますます多様化し、自分たちの価値観や好みによってライフスタイルを創造しようとする傾向にあり、しかも生活の中にゆとりと潤いを求めている。そういった意味から、この組み合わせミラーは、自分が好きな場所に好きな型紙を使用して、プロなみの本格的技術で簡単にカガミをはりつけ、魅力的な空間を創る。それは、単にカガミを組み立てるだけではなく、自分が手をかけた確かな喜びと、自分の住む環境を美しく、楽しい状態におきかえる相応しい製品といえる。

（垣村三平）

第37回 全国植樹祭

第37回全国植樹祭は、天皇陛下の御来臨を得てこの5月堺市で開催される。それに関連して、大仙公園を中心に各種の記念行事が行われることになった。

■全国植樹祭と「堺・緑のフェスティバル」

開催日時　5月11日

会　　場　主 会 場　　大仙公園
　　第二会場　　金岡公園野球場

テ ー マ　「都市の未来に緑を託して」
　　地球的な規模で緑資源の急速な減少が深刻化している現状を踏まえ、人々に緑の大切さを訴えるとともに、21世紀に向って、大阪が内外にひらかれた緑豊かな国際都市として発展しようという決意を表現する。

主　　催　国土緑化推進委員会・大阪府・堺市

催　　事

●主 会 場　天皇陛下による記念植樹（クスノキのお手植え、ヒノキのお手まき）を中心とした記念式典（招待者のみ）

●第二会場　「堺・緑のフェスティバル」
　　球場にオーロラビジョンを設置して、主会場の記念式典の中継を行った後、市民パレード ママさんコーラス、郷土芸能などもあり、午後には、山本譲二、神野美伽、増田恵子、大平サブローシロー出演のＡＢＣ公開録音によるアトラクションも企画されている。

■関連記念行事

●緑化推進府民大会　　4月5日　市民会館
　緑に関する府民のための〝講演と音楽の集い。

●仁徳陵特別参拝区域の公開　　5月中旬　仁徳陵
　一般参拝所から36mほど奥に入った区域を1週間程度一般公開する。（国賓などの参拝する特別区域）

●〝緑の鐘〟カリヨンの塔の建設　　4月中旬　大仙公園
　フランス製のカリヨンが付いた百舌鳥の親子をかたど

る２基の塔が建設され、ライオンズクラブ国際協会335Ｂ地区から堺市へ寄贈される。親鳥は高さ10ｍ、20個のカリヨンが取り付けられ１日３回美しいメロディーをかなでる。子鳥は高さ３ｍ、２個のカリヨンは手で自由に鳴らすことができる。

●国際グリーンフォーラム　５月９日～12日　万国博ホール
国立民族学博物館講堂

"都市と緑の文化戦略。をテーマに11ヵ国49人の学者・行政官などの講師・パネリストを万博記念公園へ招いて開催される。

公園写真コンクール

市内の公園の四季の景観や出来事を題材にした"四季の公園。写真コンクールが企画された。市内に住むか勤務しているアマチュアカメラマンならだれでも応募できる。（堺市・堺市公園協会主催）

作　品　四ッ切カラー写真
（未発表のもので組写真を除く）

応　募　応募用紙（協会またはカメラ店に有り）に記入の上、作品の裏に貼り、堺市公園協会（〒590 櫛屋町西1-1 ザビエル公園内）へ。１人２点以内。

締　切　11月30日

発　表　知事賞・市長賞等を選び、12月上旬に入賞者に通知。副賞としてカメラも用意する。

春夏の文化・スポーツ催事

■堺市の催事

●緑化推進府民大会	４月５日	市民会館
●堺シティマラソン	４月29日	大仙公園・仁徳陵
●第37回全国植樹祭	５月11日	大仙公園・金岡球場
●仁徳陵特別参拝区域の公開	５月中旬	仁徳陵
●ホタル観賞会	６月中旬	大仙公園
●大魚夜市	７月31日	大浜公園

■博物館の展示

●特別陳列「堺環濠都市遺跡の出土品」	～４月20日
●春季特別展「朱漆（根来）その用と美」	４月26日～５月25日
●新収蔵品展（前期）	５月31日～６月29日
●　〃　〃　（後期）	７月１日～８月３日
●特別陳列「考古展」（仮題）	８月６日～９月28日

■祭り

●大鳥神社「花摘み祭り」	４月13日
●　〃　「菖蒲祭り」	６月中旬
●方違神社「ちまき祭り」	５月31日
●発光院「愛染祭り」	５月31日～６月１日
●月洲神社「夏祭り」（獅子舞い）	８月４日～５日

会員ニュース

勤労者のための講座『趣味講座（ステンドグラス）』

堺市経済局・労働福祉課より堺デザイン協会に趣味講座の後援依頼があり、ステンドグラス入門講座が去る３月４日/７日/11日の３日間堺市勤労会館において、勤労者の福祉対策の一環として、開催されました。

当協会より上野冨美子と上野あきらの両名を、講師として派遣、セルリアン・ステンドグラス・ルームの協力（赤股貴美子インストラクターの派遣）も得て、３日間の講習も多数の参加者を集め盛況の内に幕を閉じました。

尚、市の主催によるステンドグラス講習は、例が少ないのでステンドグラスの専門季刊誌「すてんどぐらすあーと」に紹介記事が掲載されました。

- 新しい会員３名を迎えて、３月現在、会員数は46名になりました。
  新会員にも「会員のプロフィール」で自己紹介をお願いしております。
- ＳＡＤＡに入会ご希望の方は、事務局または、お知り合いの会員にご相談下さい。

表紙の写真

南海本線堺駅を西え大浜公園のはずれに旧堺燈台がある。明治10年、英国人技師ビグルストーンによって設計・建造され、木造としては日本最古の燈台である。明治から昭和にかけ、大阪湾を航行する船の道しるべとして親しまれて来たが、臨海工業地帯の完成により港の形も変り、燈台は役をはたせなくなって、昭和43年１月機能を停止した。

今又陸上では高速道路の建設中である。燈台は鉄とコンクリートにかこまれて、いかにも小さく見える。海と空を失った燈台は文化財として保護され、名跡に指定されている。

（広報委員　山崎　晶）

編集後記

第４号の原稿締切予定日には、90％以上が集まるという成績の良さで、寄稿者のご協力に感謝します。私もこのような小冊子を手掛けるのは始めてのことで、３号では何から手をつけてよいやら、４号でもその点は変りませんが、担当委員の皆さんのご援助によって発刊までこぎつけました。今回は堺でのファッションショーと大内順子さんのお話しを載せることが出来まして、いつもとは少し違ういろけのある誌面になったのではないでしょうか。

今後も内容充実には心掛けていきますが、会員皆さんのご参加と協力をお願い致します。ＳＡＤＡニュースに載せたい記事がありましたら担当委員までご連絡下さい。

（広報委員　金子誠之助）

会報 SADA　４号
昭和61年３月31日発行

発行　堺デザイン協会
〒590 堺市北向陽町１－１－７
オカムラデザインプロ内
TEL 0722－29－5011

編集　堺デザイン協会広報委員会